

# 西川古柳座、 第五回公演 次世代の飛躍

**出演** 八王子車人形西川古柳座 若手の会  
義太夫 太夫 竹本乾太夫  
三味線 野澤仁一郎



## 演目

けいごと だんごり  
景事「団子売り」

だてむすめこいのひがのこ  
「伊達娘恋緋鹿子」

とうかいどうちゅうひざくりげ  
「東海道中膝栗毛」

ひのみやくらのだん  
火の見櫓の段

あかさかなみきのだん～ふるでらのだん  
赤坂並木の段～古寺の段

チケット発売日  
7月5日(木)

2018年8月25日(土) 26日(日)

14:45開演 (14:30開場)

## 八王子車人形稽古場

〒192-0154 東京都八王子市下恩方町1566

●JR中央線「高尾駅」北口から西東京バス「恩方ターミナル」行き、  
「宝生寺団地」行き、「大久保」行きで「川原宿大橋」下車徒歩10分。

### 親子教室発表 14:00～14:30

**演目** 三番叟 ほか ※入場無料 終演後入れ替え



**全席自由** 一般:1,500円  
学生(中学生以上):1,000円  
小学生:無料

- ◆販売窓口 ※発売初日は10:00～  
いちようホール……………042-621-3001  
南大沢文化会館……………042-679-2202  
学園都市センター……………042-646-5611  
オリパスホール八王子…042-655-0809
- ◆電話予約 ※発売初日は13:00～  
(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団  
042-621-3005
- ◆インターネット予約 ※発売初日は10:00～  
<http://www.hachiojibunka.or.jp/>  
\*事前に利用登録が必要です。



## 景事「団子売り」 (だんごうり)

桜田治助の清元を義太夫化したもの。

あらす玉の年の初めを寿ぐ、夫婦の団子売りの純俗物の舞踊。

団子売りの杵造(きねぞう)とお臼(おうす)の夫婦が、屋台をかついで町並みを流している。やがて、臼を真ん中に据えて杵を抱え「臼と杵とは夫婦でござる。」と唄い囃しながら、仲良く餅をつく。

杵造は、赤手拭いで向こう鉢巻をして「お月様さえ嫁入りをなさる。やっときなさるとこせ…ほんにえ、お若いあの子を産んで…」と身振りも鮮やかに浜唄を踊る。

かわってお臼が、手拭いで姉さん被りで現れると「高砂尾上の爺さまと婆さまが、箒を手に持ち熊手を担いで…」と早間で賑やかに、慰(じょう)と姥の振りをコミカルにみせる。夫婦はまた、屋台を担いで次の街へ流してゆくのだった。



## 「伊達娘恋緋鹿子」 (だてむすめこいのひがのこ)

恋人に会いたさに放火して火あぶりの刑に処せられた八百屋お七を扱った浄瑠璃。

八百屋九兵衛の娘お七は、恋人の吉祥院の小姓吉三郎が今宵、切腹せねばならぬ原因となった天国の刀の所在を知らせたいとあせります。思いあぐねたお七は、町々の木戸を開くために、火刑覚悟で禁制の火の見櫓の半鐘を打ち鳴らします。

雪の降りしきる中、髪を振り乱したお七の美しさは、見るものを陶然とさせます。



## 「東海道中膝栗毛」 (とうかいどうちゅうひざくりげ)

江戸時代の滑稽物で十返舎一九の作品を題材にした、ご存知「弥次さん喜多さんの珍道中」の物語です。ところは、「御油(ごゆ)の宿」のはずれの並木道。弥次さんが狐の面をかぶって、先を行く喜多さんを脅かしてからかいます。このときの二人の軽妙な会話のやり取りが笑いを誘います。珍道中はまだまだ続きます。日も暮れた頃、卵塔婆(らんとうば・お墓)にさしかかった二人に、お遣い帰りの小僧が近寄ってきます。これを化け物と勘違いした弥次さんは、おもいきり棒で殴ってしまい、怒った父親にとっちめられ気絶してしまいます。夜中に正気に戻った弥次さんは、自分が経帷子を着せられているのに気づき、死んで地獄に落ちたと思いこんでしまいます。悲嘆に暮れていると古寺があり、弥次さんは「亡者」として和尚に助けを求めます。卵塔婆の騒ぎから一人逃げ出していた喜多さんも偶然、この古寺に逃げ込んでおりました。喜多さんは、弥次さんの姿を見てびっくり……。

その上、この古寺の和尚も、何か怪しい雰囲気で……。さてさて、二人の運命は？

八王子車人形西川古柳座 五代目家元

### 西川古柳

にしかわこりゅう



八王子に160年以上続く国・選択無形民俗文化財である伝統人形芝居「八王子車人形」の五代目家元。幼少より祖父(三代目)、父(四代目)に指導を受け、23歳で文楽研修生として三人遣いの操作も学ぶ。地元八王子での定期公演のほか、日本各地で公演。海外招聘も多く、世界各国で公演を行なっている。ホームページ <http://kurumaningyo.com/index.html>

### 【車人形とは】



人形遣いがロクロ車と呼ばれる箱車に腰をかけて、文楽人形と同等のものを一人で操れるように工夫した珍しい人形芝居です。ロクロ車の箱の中の前に二輪、後ろに一輪の車輪がついており、体重移動で自由に方向転換できます。

### 竹本乾太夫

たけもと いぬいたけう



東京都新宿区出身。日本舞踊地方(ぢかた)を始め、人形浄瑠璃及び全国の歌舞伎竹本を勤める。古典のみにとどまらず現代劇、洋楽等他分野とのコラボレーションも手掛けている。舞台出演以外には、伝統芸能講座、ワークショップ等の講師を勤めつつ、保育園や小学校向けに幼児・児童に対する上演や体験教室なども行っている。義太夫協会所属。

### 野澤仁一郎

のざわじんいちろう



1988年、福島県南会津町生まれ。30歳。2001年、大歌舞伎義太夫「竹本」の故・竹本綾太夫師にスカウトされ、田島子供歌舞伎の義太夫語りとして初舞台。その後弾き語り奏者となり、綾太夫師に語り、同じく竹本の三味線方・野澤松也師に三味線の手ほどきを受ける。2015年より、竹本乾太夫師の三味線方としての活動を始め、同年「野澤仁一郎」を名乗る。これまで出演した舞台に八王子車人形公演、千川流舞踊発表会「萩乃会」、葵舞踊振興協会「花葵の会」、笛子追分人形公演。このほか「竹本仁太夫」として、檜枝岐歌舞伎の義太夫や、松也師が創始の創作浄瑠璃の弾き語りも勤める。